

第1回 アウトリーチ・サポートチーム研修会 報告書

日時	R5年5月16日(火)9:30～
会場	立花市民センターイベントホール
参加者	<p>24名 (相談ビスケット):15名 ゆうゆう(宇佐原氏)、よろず屋(上村氏、川島氏、松村氏)、陽だまりの里(杉山氏、酒井氏)、悠(池田氏、福山氏、伊藤氏)、ほっぷ(西尾氏)、キャンディハウス(水町氏)、リーベル(西村氏、矢野氏)、八女市障がい者福祉係(堤氏)、八女市障がい者基幹(牛嶋)</p> <p>(アウトリーチ・サポートチーム):9名 こども相談室あおいとり(高倉氏)、筑水会病院(内田氏)、あおぞら(田島氏、藤井氏)、福岡県ひきこもり地域支援センター(宗氏)、八女市障がい者福祉係(伊藤氏)、生活支援係(中野氏)、八女市障がい者基幹(井手口、堤)</p>
内容	<p>1. 報告事項</p> <p>「八女市成年後見制度利用促進中核機関について」 報告:一般社団法人 いけだ社会福祉士事務所 池田将樹氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろが中核機関として関係機関の相談窓口として対応。 (社協は地域の方の相談窓口) ・今後福祉課といろいろで相談事業所を巡回訪問。意見交換やケース相談など。 <p>2. ○講演</p> <p>「あらためて地域でのグループスーパービジョンの取り組みについて考える」 講師:福岡県相談支援体制整備事業アドバイザー 池田顕吾氏 (福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センター センター長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の診断増、問題の複雑化、支援の広範囲化→サービスを組み合わせるだけでは対応できないケースが増えてきた。とはいえ、基幹スタッフも発展途上。専門的な指導、人材育成が課題。 ・経験が長くなると支援方法に個性がでてくる。うまくいったら、その方法を続けがち。それでいいのか？ ・なぜグループスーパービジョンが必要なのか？<u>一番の目的は支援者の成長。実践を他者に伝え意見を聞くことで自己の振り返り、気づきを深めていく。</u> ・グループスーパービジョンの場=<u>相談支援体制整備、相談機能強化、地域づくり。</u> 基幹の相談員は「指導、助言」を行う立場ではなく、「場づくり」を行うコーディネーターでありファシリテーター。グループスーパービジョンにより参加者全員の底上げ→地域の支援力向上。 ・グループスーパービジョンでは事例提供者の困りごとの背景に仮説をたてて、質問・投げかけをする。事例提供者の困りごとに対する気づきを導く質問を心掛ける。

○グループスーパービジョンの実践 10:30～

（事例提供者:ほっぷ 西尾氏
ファシリテーター 池田氏
板書 井手口

3. その他

○冊子「こんな高校あったんだ」の紹介

○発達障がい者支援センターあおぞら 田島氏より

・現在、新規相談も対応可能

・地域支援マネージャー(田島氏)の役割や支援内容の説明:困難ケースや事例検討、勉強会など専門的意見が必要な際は活用を。

○相談ビズケットとアウトリーチ・サポートチームに分かれて今年度の活動計画について話をする。

(アウトリーチ・サポートチーム)

・今後の予定

8月:グループスーパービジョン、意見交換

11月:(案1)つむぐクリニックより講話、意見交換

(案2)山口大学大学院 山根先生

ひきこもり支援についての講義と技術面のレクチャー

2月:グループスーパービジョン、年度のまとめ

・アウトリーチ・サポートチームのチラシ(案)を配布。確認、修正等を行い、各領域で周知、事例提出の呼びかけを行っていきたい。